

みのわ未来委員会（第21回）会議要録

日時：平成31年4月8日15時00分～16時30分

会場：地域交流センターみのわ 研修室A B

参加者：みのわ未来委員会委員9人（欠席：中村委員、那須委員、矢島委員）

町長、副町長、課長11人、事務局3人（企画振興課）、

傍聴人数：0人

報道機関：3人

1 開 会 （毛利企画振興課長）

2 町長あいさつ （白鳥政徳町長）

3 説明事項 （進行 小口会長）

（1）平成31年度の予算概要と取り組み事業について

※資料1-1、1-2にもとづき事務局から説明

小口会長）

説明のあった平成31年度の予算概要と取り組み事業について、各課長さんもいらして
ますので、具体的な部分もお答えいただけたらと思います。委員の皆様、ご意見またはご質
問はいかがでしょうか。

野澤委員）

町長への手紙は、予算を使わずにできる内容でやるというイメージか。窓口においてあ
るような箱を置くのか、それとももう少し具体的に何か考えているか。

白鳥町長）

まだ予算化はしていないが、1番の肝は、全町民の皆さんに何らかの形で手紙を出せる
形を作りたいというもの。基本的には、みのわの実の中に入れる予定で、郵送もしくは届
出等でお返しいただくという趣旨。一定の金銭、わずかな額になるが必要になると考えて
いる。補正予算で行いたい。データベース化するのにお金がかかるどうかの積算はまだ出
来ていない。通常のパソコン処理の中で出来るのか。どこの課でも情報を共有できるよ
うにという意味合いで考えている。その上で職員の政策研究でも使用できるように考えてい
る。まだ予算化は出来ていないが、大きな額、100万円を超えるような額は、考えていない。

小口会長）

町長への手紙に関連して質問等はいかがでしょう。

小松委員)

町長への手紙というのは、これまで開催してきた地区懇談会に代わるものになるのか、それとも地区懇談会は、並行して行うのか。

白鳥町長)

私が答えるのもなんですが、地区懇談会は、並行して実施する。地区懇談会については、昨年が町長選挙の年だったので、あえて実施しなかったが、今年以降は、実施する予定。地区懇談会に若者やお年寄りの方が出てくるのは、中々難しい。どうしても地区の役員の方々が中心になってしまうので、個別の困り事や要望を拾いあげれるようにしたい。町長への手紙という名称でなく、町への手紙でもいい。私の政策集に入っているのも、町長への手紙という名称になっている。名称は、とにかく、全ての町民の皆さんからご意見をいただきたい。ご意見をいただいた上で全て回答を返しますというのが肝になっている。

小口会長)

町長への手紙以外でご質問はどうでしょうか。

山中委員)

(資料1-1) 7ページ、④のフッ化物洗口・フッ素塗布事業について。多くの予算が計上されているが、モデル園・モデル校を何校で計画しているか。大変とてもいい事業で、今後、オーラルケアは長い目で見て健康寿命にも繋がってくる。とてもいい事業だが、モデル園・モデル校は何校で考えているか。

柴宮健康推進課長)

保育園と小学校で実施予定。保育園は、東みのお保育園、沢保育園、三日町保育園の3園で実施予定。小学校は、西小学校で実施予定。

山中委員)

この予算額であれば、全学校で実施できると思うが。

柴宮健康推進課長)

週1回、実施予定。小学校は、スケジュール的に厳しい。今年に関しては、まず1校で実施してどのような状況になるかを私達、担当者及び学校の方もみてみたい。順次、他の所も進めていきたい。

山中委員)

週1回をどのくらい継続するのか。

柴宮健康推進課長)

これから保護者への説明もあるので、いつ始められるかは、決まっていないが、1年間通して行う予定。

小口会長)

この事業は、他の自治体でも行っているのか。それとも箕輪町独自か。

柴宮健康推進課長)

県内では、実施自治体があるが、上伊那では初めて。

白鳥町長)

乳幼児から始まって、小学生までのう歯の保有率が高い。フッ化物の洗口を行ったり、2歳児には、フッ素塗布を行う。保護者の方々の理解を得ないといけない。学校や保育園で実施する時間を取れるかどうかの問題。1度に全ての保育園、小学校で実施するのは、難しいと思い、モデル園・モデル校とした。まずやってみて、課題が出てきたら、それをクリアできるか考えた上で進めていきたいと思っている。

山中委員)

本当にとってもいい事業だと思う。オーラルの問題は、家庭の経済状況によって虫歯の状況が出てしまうという記事を読んだことがある。本当に応援していきたい事業。

白鳥町長)

口腔崩壊と言われている。1人の子がたくさん虫歯を持っていると虫歯の保有率が高くなる。家庭によって大きな差があるので、学校の方で手をいれていかないといけないと思っている。

山中委員)

箕輪町の教育の大きな目玉になると思う。

浦野委員)

(資料1-1) 6ページ、⑨の移住定住促進事業・若者世帯定住促進事業は、具体的にどのような事を行う予定でどのような特徴があるのか。

社本みのわの魅力発信室室長)

(資料1-2) 4ページ、ア～カを柱に体系化して取り組んでいくというのが趣旨。アの住まいの確保策については、本年度に関しては、新規事業として予算計上したものは無いが、若者世帯定住支援奨励金を拡充事業として実施する。40歳未満の世帯が住宅購入・建築した場合に補助金を交付するというもの。これまでは、郡内、郡外で補助金額が別れていたが、今回は、子どもの人数によって補助金額が増える様に内容変更をした。イの就労・起業支援策については、国の地方創生交付金を活用。東京圏、大阪、愛知から町内企業に就労して、移住した場合に補助金を交付する。就労に関しては、200万円。移住支援金として引っ越し代金相当100万円を交付する。起業についての補助金は、県の方で交付することになっている。東京圏等から町内で起業した場合に起業の部分は、県から支援。町からは、引っ越し相当分として100万円交付する。U・Iターン応援特定人材就労奨励金は、看

護師や保育士等について、町内で人材が不足しているという事でU・Iターンをして事業所に勤めた場合は、奨励金を交付するという内容。U・Iターン応援就職活動支援補助金については、これから箕輪町にU・Iターンして箕輪町の企業に就職する為の就職活動を支援するもの。交通費の半額を補助する。U・Iターン応援奨学金返還等支援補助金については、U・Iターンをして町内企業に就労した方を対象に奨学金の返還支援を5年間行うもの。返還金額の2分の1の補助を行う。ウの移住者のフォロー体制の構築は、移住者が箕輪町に移住してきて良かったなと思ってもらえるように相談窓口の充実を図る為に移住定住総合窓口の設置を行う。今までも窓口は2階の魅力発信室の所にあったが、役場1階に移して相談に来やすいようにした。相談内容の充実も図っていく。移住者里親制度については、移住者の方は、町にゆかりの無い方が多いので、地域に馴染めるように移住者の希望によって近くに住む方を紹介し、フォローをしていく事を考えている。箕輪町とのつながり確保策については、箕輪学の更なる充実、昨年度から始めたみのわファンクラブの更なる活用、若者同窓会支援補助金の新設等を行っていく。町から若者が出ていくのが箕輪町の大きな課題となっている。同窓会等の際に箕輪町の魅力等を伝えさせていただき、何らかの機会、例えば子育ての時に町に戻ってこようと思ってもらえるように同窓会の時に町の施策を紹介していきたい。同窓会開催経費に対して補助金を交付する。オのIターン促進策については、移住者の掘り起こしということで、移住相談会や移住体験ツアーに取り組んでいく。カの若者・子育て世代を惹きつける魅力あるまちづくりについては、移住施策そのものというよりも今住んでいる方も含めて箕輪町に住んでいたいなと思ってもらえる施策を充実させる事によって、移住してこようという人にとっても魅力的になるのではないかという事でここに位置付けている。その中で新規事業についてご紹介させていただくと女性向けの起業支援講座や女性のための就労相談窓口の開設、他にも町内の女性によるワークショップ等の開催に取り組んでいく。

浦野委員)

東京圏、大阪、愛知という話が出ていたが、Uターン、Iターンの意味を詳しく教えていただきたい。

社本みのわの魅力発信室室長)

Uターンは、町に昔住んでいた方が町外から町内に戻ってくる事。Iターンは、町にゆかりの無い方が町に住んでもらう事。先程、東京圏、大阪、愛知という話をしたのは、U・Iターン応援就労・起業支援補助金が地方創生交付金を活用するため。国の東京圏から地方に人を移していくという施策に乗っかっている都合上、U・Iターン応援就労・起業支援補助金は、東京圏から移ってくる人が対象になっている。それにプラスして、長野県は、東京圏だけでなく、大阪、愛知を含めて同様の制度を構築しているので、箕輪町としても東京、大阪、愛知から移り住んでくる方をU・Iターン応援就労・起業支援補助金として行っていく。U・Iターン応援就労・起業支援補助金は国の施策に乗っかっていることもあり、地域が特殊になっている。基本的には、町外と捉えてもらえれば。

市瀬副会長)

U・Iターンの対象は、若い方か。東京に働きに出たが、定年を迎えた方を箕輪町に呼び

戻したりするという発想はあるか。

社本みのわの魅力発信室室長)

そういった事も取り組む必要があると思うが、町として取り組んでいく時に(資料1-2)3ページの年齢区分別転出入の状況にあるように若い世代の転出超過が課題。町として何処を重点に施策を打つかと考えた時に若者・子育て世代が大きなターゲットになると考えている。今回のU・Iターン応援プロジェクトに関しては、若者・子育て世代をターゲットとした施策をまとめた。

市瀬副会長)

個人的な意見だが、若い人は、人口がどんどん減少している。日本中の市町村が呼んでこようとしているので、ハードルは高いと思う。それでも若者・子育て世代を連れて来なければいけないのは分かる。高齢者が移住すると高齢者の比率が上がってしまうのも分かるが、65歳以上の方は資産を持っている方が結構な割合にいるという統計もあるので、そういった方を呼んでくるというのを今後の課題として取り組んではいかかがか。

白鳥町長)

高齢者がいけない言っているわけではない。経済効果は、かなり高い。定年を迎えて、元気な方が移住すると何億という経済効果を生む。今の高齢者は、移住してきたとしても都会との接点がある方が非常に多い。孫が東京にいたり常につながっている。かなり効果が高い事は承知している。今回、一番心配しているのは、20歳代の女性が3年間で121人転出している状況。これをある程度抑えないと。少子化のストップは無理だが、少子化を少しでも抑えるためには、ここを何とか重点に切り崩したい。市瀬副会長がおっしゃったことは、よく承知している。また、次の政策を考える時に考えたい。

浦野委員)

高齢者は、ノウハウや知恵を持っており、経験値が高いので、箕輪町の様々な所で活躍できる場を提供し、はめていくというのは効果的。この時代は、高齢者であれば余暇を過ごすとか余生を過ごすというよりも更に活躍してもらおうという観点が必要。働いてお金を稼ぐというものもあるが、それ以外の地域活動にも積極的に頑張ってもらって、年金問題等の今後の課題もあるが、そういう政策も重要になってきていると思う。

白鳥町長)

定年機能も含めて、必要だと思う。

小口会長)

予算の付け方をみると、定住促進に重点を置いてすすめていくという姿勢がしっかりみえる。社会増につながる事業は、他の市町村でも同じ課題として捉えていると思う。それぞれに施策の展開をしていると思うが、今回のプロジェクトが近隣の市町村と比べても定住促進で負けない施策を打ち上げているんだというのは、いかがでしょうか。

社本みのわの魅力発信室長)

近隣の市町村に負けない施策として、1つ意識したのは、若者世帯定住支援奨励金について、住宅を建てる時になるが、子どもの数に応じて手厚くなるようにした。そういった所を見直した。就労・起業支援にしても他の市町村においてもメニューの1つである所は、あると思うが、ここまで手厚くなっている自治体はないと思う。もう1つ意識したのは、移住者のフォロー体制。箕輪町に移住して良かったなと思ってもらえる施策という事で窓口の充実。先程も説明したが、移住者里親制度については、近隣の市町村には無い取り組みだと思う。

小口会長)

これだけの事業を一気に行うのは大変かと思うが、頑張ってもらいたい。

高橋委員)

(資料1-1) 8ページの子育て支援サイトの更新は、更新内容やどのような方に対応しているか。子育て状況自体が、例えば20歳代の方が町外に出ていく前に知っているのか、学業で田舎を離れる前に町の子育て環境がいい環境と知って出ていくのと、出会って結ばれてやむを得ず外で生活するが、行く行くはここで子育てをしたいな、ここに戻ればどんな事にチャレンジできるんだろうという家族になろうというテーマでも発信できる。Uターナーがきっかけになると思うが、そういった傾向と対策、内容を教えてもらえれば。

唐澤子ども未来課長)

子育て支援サイトの更新、多くの方にみのむしをご利用いただいている。今回については、機器の更新を行う。それに合わせてアプリもブログもあるのでこの事について情報提供できるように変えていく。今いただいたPR等については、これから設計段階なので、子育て前の方にも見ていただけるように更新の検討に活かしていく。

柴委員)

これからの希望。若い方々が単家族、結婚して旦那さんと奥さんだけで住むのではなく、皆で都会から来て家族と一緒に住もうという形をとれば、もう少し箕輪を出していける。箕輪町は、保育園に入れない子はいない。お年寄りも安全に住める町としても売り出している。そういった所を家族になろうといえる町として出していけば違うのでは。1世帯の単家族だけでなく、ご両親と一緒に来て箕輪に住みませんか、空き家があるからこうですよという事につなげていければ、お年寄りの1人住まいも無くなるのでは。家族で来る方々への補助を付けるというのも1つの案だと思う。そうすれば、買い物弱者もちょっとは無くなる可能性がある。皆で協力している町というのを強く打ち出した方が今やっている事をもっと強調できると思う。

白鳥町長)

3世帯同居を進めていかないといけないというのは、特に3世帯同居が多い富山や福井をみると、安全・安心や教育環境等の面で非常に有用な施策。箕輪町では、世帯分離がどんどん起きている。町の中でも世帯分離が起きている状況なので、それが決して良いこと

ではないが、世帯分離といっても2世帯住宅のように同一敷地内の世帯分離も多い。そういった事を細かく調べた事はないが、生計は違うが世帯はという所が大分多くなっている。外から来るのに、そういったものにインセンティブを付けるのは、可能であれば面白いと思う。

柴委員)

これからは、そうしないと若者だけでは来ないと思う。

白鳥町長)

若者の方が田園回帰の風潮が強い。40～50代は、中々来ない。都会が嫌だという事ではなく、田舎暮らしをしたいとか自己実現が田舎の方ができるといことがある。

柴委員)

良ければ連れてくる。そういう売り方もいいのでは。そういう売り方は、他の所では無い。他県ではあるが。

白鳥町長)

そういう所でメリット感を出さないと難しいと思う。

柴委員)

それをまた考えて欲しい。

小松委員)

(資料1-1) 1ページ防犯カメラの設置について、具体的に場所は決まっているか

中村総務課長)

防犯カメラは、天竜公園に試験的に設置中。個人情報の問題もあって、色々な所には、中々、設置できない。天竜公園に設置している。

小松委員)

町長が木下に来た時に箕輪町に幼稚園が無いという事で、木下の統合園をこども園にしてもどうかと提案した。今回の資料では、それに触れられていないが、難しかったでしょうか。他から来た母親、保育園に行くような年齢の子供を持った母親としての私の体験談として、自分が全く知らない土地で初めて生活する所でいきなり働き、自分も働いて子どもは別の生活させてというのは、非常に不安だった。幼稚園だと町外に出さないといけないうことで、同居を始めた主人の両親、特に祖母の意見で近くの保育園に入れた方が小学校にあがった時に良いからと従ったが、自分が落ち着くのに何年もかかった。なので、もうちょっと選択肢があった方が子育て世帯のお母さんも外に出さなくてすむ、または、子どもに関しての教育や習い事も含めてそういう特色があった方が若い女性が定住してくれるのではと思った。

白鳥町長)

その話については、よく承知している。上伊那は、伊那市と辰野町しか幼稚園がない。町から20人弱か超える位が幼稚園に通っている。箕輪町は、8保育園という形式になっているので、幼稚園という発想が無い地域。そこが松本市や長野市と違う所。単なる保育というよりは、英語あそびや運動あそび等、保育園でやっている中身としては、かなり質の高い保育をしている。両者を比較してうんぬんというのは、町としては持っていないが、ご意見いただきましたので、もう1度よく考える。

小口会長)

(資料1-1) 5ページ防災行政無線用個別受信機の設置について、以前、町長から音声告知放送をやめたいという話を伺った事があったが、これは告知放送廃止の代替案になっていくのか。

白鳥町長)

音声告知放送をやめたいが、中々そうはいかない状況がある。今の状況から考えると色々なチャンネル、情報入手手段を持っていた方がいいというのが大方の意見。この防災行政無線からしか聞こえない人を何とかするというのと音声告知放送の加入率30%で旧来から住んでいた方しか持っていないが、高齢者の皆さんの情報の入手手段としては良い。音声告知放送は音声告知放送で残す。今回の防災行政無線の聞こえない所、もみじちゃんメールを使えない人にとっては、この方法しかないと思うので、継続的に何年かかけて個別受信機を入れていきたいと思っている。

小口会長)

無償整備か。

白鳥町長)

基本的には。

山中委員)

町の体育館と博物館の改修ということで体育館の設計を始める予算が付いている。いつかの新聞記事で国体に向けてという記事を読んだ。その予算は組んでいないようだが、その後はどうなっているか

白鳥町長)

国体は39年度なので時間がある。一度に全部改修すると体育館を使用している子どもや大人が体育館を使用できなくなるので、順々にやっていくということ。最初に耐震性が無い町民体育館を行う。改修には1年~1年半かかってしまい、その期間は利用できないので、利用者には、上手く分散して過ごしてもらわないといけない。まずは、町民体育館と武道館の改修を行って、それが終わったら国体用の社体なら社会体育館を改修するというように順序立てて考えている。来年度、32年度か33年度になると思うが、町体と武道館の改修に入りたい。国体用については、その後考えていく。

小口会長)

他には、よろしいでしょうか。よろしければ、この件については、ここまでにします。次にすすみます。

説明事項(2) 平成31年度の予算概要と取り組み事業について

※資料2にもとづき事務局から説明

浦野委員)

医療体制については、非常に満足度が高いが、医師の数に関しては、県内のランク、上伊那のランクは高くなかったと思うが、この辺の相関性はどうなっているか。満足度と重要度の部分で道路・橋梁の整備について、重要度が高く満足度が低いとなると、一般的にいうと優先事項だと言われるが、道路整備のことなのでよく分からないが、こういう結果になるというのは、箕輪町の皆さんが更に道路や橋をより良くしてほしいのか、強い要望として、具体的施策の中に出てきているのか。

白鳥町長)

医療人材、特に医師や看護師が長野県内の中でかなり低い位置にあるというのは、事実。医師について言うと、上伊那は、木曾に次いで少ない方から2番目、3番目にいる。1つ言えるのは、上伊那の場合、伊那中央病院が中心にあって、公立3病院だけで民間病院がほとんど無い。特に日赤と厚生連がない。普通はどちらかがある。そうすると病院があるだけで医師の数が増える。諏訪がそうで、諏訪日赤があるので数が増える。上伊那の1番の弱点は、歴史的に厚生連や日赤が無かったこと。それは、公立3病院でやっていくという地域だったからだと思う。それが医師の不足に繋がっている。もう1つは、医師を育成するような教育環境、高校から大学へというのが薄い。良い子供達は、松本、諏訪に行って、東京に出て、松本、諏訪に帰ってしまうという状況がある。医療人材を入れていく為の所が少ない。ただ、数字に表れているように住民の皆さんが病院や診療所が少なく困っているかというところではないのではと私は感じている。箕輪町の場合は、診療所が8~9で内科はかなりあるが、皮膚科や耳鼻科が無いという部分で不足感を感じている方はいると思う。今までは、小児科も無かったが、今回、小児科が三日町に出来るが、そういった意味での不足感を感じている方はいると思う。統計数字ほど感じてはいないが、決して医療体制が良い場所では無いと思う。1番は、高校教育から医師を養成する必要がある。道路については、本当に悩ましい。国道と県道はかなり良い位置にある。縦線の道路は、辰野に行くと1本~2本になってしまうが、箕輪は、4~5本ある。大きな道路でいうとそんなに道路整備をしないといけないと住民の皆さんは思っていないと思う。問題は、上古田から長岡や福与へという線があまり良くないこと。町内の中の町道の改修率がいまいち良くないという意味で本当の生活道路について、重要度は高いけど満足度が低いという感じはあるかもしれない。舗装や補修が中々進んでいないという所もある。バイパスはキレイだが、1本入るとというのが、住民の皆さんの満足度を薄くしているのかもしれない。

浦野委員)

それに対してどうするか。

白鳥町長)

中々、改良という。今、南信地域では、圧倒的に伊那と駒ヶ根間を結ぶ伊南バイパス、三遠南信という大きなバイパスにお金が入っているので、小さな改良工事はお金がつかず、厳しい状況にある。ただ、町民の皆さんや議員からもその点についてかなり言われているので、予算はいれていかないといけないと思う。

高橋委員)

12 ページの満足度・重要度の平均値比較の図について。満足度が低く重要度が低いというのは、関わっている当事者が少ない、もしくは個の力では、改善できない観光、林業、農業等。そういったものは、実は、生活の基盤だったり、農業を営んでいないが農地を持っている方が多かったり、そういったものが多いと思う。満足度調査の中でも精密に精査すると、重要度が低いとみなされている中にも実は大切なものがあるのではないかと。先程、町長がおっしゃられた医者を増やすためには、その前段の教育が必要というように、出て行ってしまう1つの理由として、学業をするにあたって都市圏に行かなければならないが、箕輪町に大学を作れという人はいない。そこは、重要度が低くなる。そこに期待しても関わっても無いものはしょうがない。重要度という項目も見直して、誰にとって重要度が高いのか、利用者は少ないがそこには投資しないといけないんだという明確なコンセンサスをとるような情報としたらいいのでは。

白鳥町長)

産業系がどうしていつも低くなってしまふ。自分の生活とちょっと。産業振興は、行政が出来ないと思われているかも。行政だけでは出来ない。おっしゃることはよく分かる。もう少し違う軸の作り方が必要かもしれない。

山中委員)

8 ページ。満足の理由として、どの世代でも1位が自然環境に恵まれているになっている。10、11 ページの取組みの満足度と重要度の上位に地域で地域でという言葉が出てくる。その中で取組みの重要度のページの「地域で支える子育て環境づくり」というのがあるのをみると、今回配布された資料に箕輪町の自然を活かした教育プログラムが出てないのかなと思う。箕輪町の自然を活かした、よくテレビに取り上げられている高遠の保育園で野山を駆け巡らせているのが良いということで都会からわざわざ移住して、その保育園に入れるとか。そういった点に着目したプログラムはお考えか。

北條福祉課長)

福祉課長の北條ですが、前回、子ども未来課で計画をしていたので、お答えさせていただく。(資料1-2) 4 ページ。カの若者・子育て世代を惹きつける魅力あるまちづくり中に子どもの好奇心を育む保育の実践がある。今年度、みのわっ子チャレンジ事業というものを考えている。箕輪町では、やまほいくを行っており、子どもの怪我の減少につながっている。今年度は、やまほいく認定保育園を1つ増やし、木下、松島以外はやまほいく認定を受ける予定で、既に受けている保育園もある。そういった事を含めて、自然を活かした保育を実践していきたいという事で、みのわっ子チャレンジ事業を今年度から実施して

いく。

小口会長)

他にはよろしいでしょうか。よろしければ、この件については、ここまでにします。次にすすみます。

説明事項（3）みのわ未来委員会専門部会の設置について

※資料3に基づき事務局から説明

小口会長)

委員の方からも2～3人、部会に入ってもらおうというお話ですので、また、改めてお願いする方がいると思いますので、よろしくお願いします。

説明事項（4）その他

※資料4にもとづき事務局から説明

※今後のスケジュールについて事務局から説明

小口会長)

次回10月頃ということですので、よろしくお願いします。最後に町長から何かありますか。

白鳥町長)

ありがとうございました。平成30年度の事業評価をしないといけない。9月と申したが、出来ればもう少し早くと考えている。未来委員会で評価をもらって、それに基づいて次の事業を考えていかないといけない。区や常会の地域の問題は、大きな課題となっている。どうしても後継者がいない、1人きりになってしまった、区の役は出来ない、そういったイメージが一方にあって、一方では、最近では、町から区へ、区から常会へ仕事がどんどん降りてくるというイメージがある。私共は、そんな事をしていないつもりだが、そんな雰囲気になっている。そういった中で、行政で全てできないものを地域、または、区や常会で行っていかないと町がうまく動いていかないと時代になっている。その役割分担やどういう形にすればいいのかというのは、大きな課題。専門部会を設置させていただいて、本会からも委員になっていただいて、そんなことを1年間ゆっくり考えていきたいので、ご支援いただければと思います。今日は、どうもありがとうございました。

小口会長)

熱心にご協議いただきありがとうございました。これをもちまして閉会といたします。

5 閉会

16時30分 終了